

〈目的〉 情報が家庭生活の中でどのような役割をしているのかを明確にすることにより、家庭の運営、地域社会における家庭のあり方、日常生活における人々のネットワーク作り等を考察する。そのために、家庭経営の主体者の情報観や情報に対する認識、理解、活用能力を調べる。特に、次のような事項について調査活動を行なった：家庭経営の主体者生活形態、情報受信力、情報探索力、情報収集力、情報選択力、情報理解力、情報発信力、情報加工力、情報解読力、情報運用力、情報発信力。

〈方法〉 母集団は主として京都府内の生活の家庭、標本数は1350家庭。調査員による各戸への調査用紙の配布し2～8日間の留め置き後回収する。一部調査員による面接聴取も含む。有効回収数（率）739戸（54.7%）

〈結果〉 ●生活情報に大きな関心を持っている：①日常生活に密着した情報に関心が強い、特に、子供のことや家庭内のこと、家族の健康管理に付いての情報に対する探索力、理解力は大きい。②時事的、社会的な情報に関心が強い。●人々の高学歴化に従い情報の理解力、解読力等が高く、それに対する時間とお金を支払うことに抵抗感が少ない。

●情報の入手手段は内容によりかなりバラエティーに富むが、一般に思うほどニューメディアの活用は少ない。受信力、探索力、収集力の大小はやはりテレビ、新聞、広告に依存する。しかし、整理力、運用力、発信力、読解力等の情報の加工、活用の面では家庭においてもワープロ、パソコンと言った器具の活用が若い家庭においてかなり広がっている。